



うきただより

～本校の教育目標～『学ぶ子 やさしい子 元気な子』

令和8年6月1日発行
令和8年度学校だより第3号
江戸川区立宇喜田小学校
校長 中田 伸代
在籍児童数 413名
☎ 03-3689-1291



命の大切さを伝えよう～かけがえの無い自分～

校長 中田 伸代

最近、国内外で、命が軽んじられるような痛ましい事件が多く報道されており、大変残念で心を痛めています。

6月は、「ふれあい月間」。友達との関わり方や、自分自身の生き方について改めて考える大切な時期です。この機会に、子供たち一人一人に伝えたいことがあります。それは、誰もがかけがえのない存在であり、この世界にただ一人の尊い命を与えられて生きているということです。私たちは、ときに自分と他人を比べてしまったり、自分のよさに気付かずに悩んだりすることがあります。しかし、どの子にもその子にしかないよさがあり、可能性があり、周りの人に大切にされるべき存在です。まずは、自分自身を大切にすること、自分の心や体を粗末にしないこと、自分の思いや願いを大事にすることが、全ての出発点であると考えます。

そして、自分が大切な存在であるのと同じように、友達や周囲の大人もまた、同じくかけがえのない存在です。だからこそ、相手をからかったり、傷つけたり、心ない言葉を投げかけたりすることは、決してあってはなりません。いじめは、された側だけでなく、見ている人の心にも深い影を落とします。相手の立場に立って考えること、違いを認め合うこと、困っている人に声をかけること、そして、自分や友達がつらい思いをしているときには、信頼できる大人に相談することが大切です。互いに尊敬と尊重の心を持ち、思いやりをもって関わることのできる集団こそ、安心して学び、成長できる場となります。本校では、教職員一同、「誰一人とり残さない」「いやなことはしない、させない、見過ごさない」という意識を育てられるよう、日々の教育活動の中で丁寧に指導して参ります。

また、命の尊さを学ぶ上で、自然や生き物とのふれあいは大変重要です。特に低学年のうちから、草花を育てたり、小さな生き物を観察したり、季節の移ろいを感じたりする体験を積み重ねることは、命を慈しむ心を育てます。生き物はいつまでも同じ姿でいてくれるわけではありません。だからこそ、そのはかなさに触れたとき、子供たちは命の重みや尊さを実感します。咲いた花がしおれること、虫や小動物が命を終えること、雨や風の中で自然が変化していくこと、その一つ一つが、命あるものへのまなざしを深める学びとなります。命を大切にすることは、人に対してだけでなく、自然や社会全体を大切にしようとする心にもつながっていくのだと思います。

人は、一人では生きていくことができません。子供たちは家族、友達、地域の方々、そして学校の教職員など、多くの人に支えられ、また自分もだれかを支えながら生きています。互いに力を合わせ、違いを認め合い、協力してよりよい社会をつくっていくことは、これからの時代を生きる子供たちにぜひ身に付けてほしい力です。そのために学校では、本物にふれる体験活動や、友達と話し合いながら協力して取り組む学習活動を大切にしています。体験を通して心を動かし、仲間と関わる中で相手を思いやる力を育てることが、命を大切にすることの土台になると考えるからです。ご家庭や地域の皆様とも力を合わせながら、子供たちが自分も他者も大切に、温かくたくましく成長していけるよう、今後も取り組んで参ります。



先日の運動会ではたくさんの保護者、地域の皆様にご来校いただきありがとうございました。6日(土)の学校公開では、全校で「いじめに関する授業」に取り組めます。ご来校をお待ちしております。自分の友達も大切にしながら皆が幸せに生きられる社会を作れるよう、地域・保護者の皆様と共に考えて参りたいと思います。